

What's New From ASCIKU

関西大学科学技術振興会 No.26 August 2010

高槻ミュージズキャンパスにて第3回研究会を連携開催 7月30日

第3回研究会は、先端科学技術推進機構の研究グループ「組織事故低減のための安全システムデザイン」（「安全システム研究グループ」と略称）の研究部門別発表会と連携して新設の高槻ミュージズキャンパスの見学を兼ねて開催しました。安全システム研究グループは、小澤守 社会安全学部教授をリーダーに 2010年4月に開設された社会安全学部社会安全研究科の教員の安全な社会システムの構築に資する提言を行うことを目的にした研究会です。

今回の研究会は、安全システム研究グループの活動の一環である「Seminar Series “SAFTY SCIENCE”」（第4回社会安全学セミナー）を本振興会研究会向けにわかり易い講演内容に編成していただきました。

小澤守 社会安全学部教授の司会進行でリスクと安全を共通テーマに3件の講演がありました。本振興会会員のみならず、身近な日常の課題を考えるよい機会になったのではないかと考えます。出席者は、一般からの参加者を含めて約50名でした。講演終了後、交流会を隅谷会長の挨拶で始め、講演者の他に社会安全学部の多数の教員、学生の参加を得て交流を深めました。

1 講演「リスクと安全に関する対策の異同

—事故防止対策と後始末の観点から—

社会安全学部 教授 辛島 恵美子

安全の字源的特徴から安全の概念の検討を通じて現代科学技術文明の課題（パワーアップ、複雑化など）を考え、同時にそこに生きていく姿勢について考察し、「後期安全教育」の必要性を考えました。

安全教育は、「前期安全教育」と「後期安全教育」の区別がまず必要であり、「前期安全教育」は保護者側の論理に沿った管理教育的要素が大きく、「後期安全教育」では、自分自身ばかりでなく、他者、とりわけ自らより条件の悪い立場の人々を保護する立場に転換する自覚と知識・技能に関する基礎教育が必要で、現代のリスクと安全対策（リスクマネジメントを含む）の新しい動きはそうしたことの重要性を求めていることを論じました。



2 講演「ヒトのリスク認知のメカニズム」

社会安全学部 教授 土田 昭司

安全の危険のとらえ方は千差万別です。例えば、楽しいことや自分がやっていることは安全であり、他社に任せなければならないものや命に関わるものは危険です。

危険感とは、「恐ろしさ」と「未知性」からなり、「恐ろしさ」の規定因は、制御不可能、恐ろしい、命に関わる、結果が破滅的など「未知性」の規定因は、観察不可能、前にはなかった結果が遅延的、科学的に未解明などがあげられます。

リスク認知のメカニズムについて、ヒトの情報処理特性によるメカニズム、ヒトの動機付け・感情によるメカニズムおよび他者との関係によるメカニズムの3つに分類し、考察されました。



3 講演「擬似的な危険体験は安全教育として効果的か？」

社会安全学部 准教授 中村 隆宏

危険体験型教育は、職場に存在する危険を具体的に示し、「見て、聞いて、感じる」という人間としてごく当たり前のプロセスを踏まえ、身近な危険を直感的に理解させ、危険感受性を高めることを目的とする座学を中心とした安全教育が知識の獲得(および整理)に適しています。一方で、観念としてではなく、経験として学ぶ体験型教育は、現場において必要とされる経験の不足を補い、個々人の安全意識の向上を図るとともに、安全技能伝承のための方策としても期待されることを発表されました。



天神祭 鳳講の船渡御 奉納船に乗船 7月25日(日)

天神祭のフィナーレを飾る船渡御、奉納船鳳講の船に振興会会員・機構研究員20名が乗船し、天神祭を堪能しました。今年、理工系3学部長も乗船しました。鳳神輿は黄金色が一層際立ち、鳳講は御霊を祀る講の一つで格式があり、乗船の機会は貴重なものです。川面にゆれる篝火とともに



5千発の花火により、夜空を彩る大川の船旅を楽しみました。船と船がすれ違うたびに、「大阪じめ」で祭り気分は盛り上がり、特に校友会の「関大丸」とすれ違いときは更に熱がこもり、最高潮に達しました。

台湾で第3回海外研究会を開催 8月23日(月)～26日(木)

平成22年8月23日から8月26日に、台湾高雄の正修科技大学と関西大学理工学研究科と合同で「理工学国際シンポジウム」が開催されることに合わせて、振興会第3回海外研究会が開催され、隅谷哲三会長・紀和隆副会長・寺内俊太郎名誉会長をはじめ9名の振興会会員が参加しました。楠見晴重学長を含む17名の教員および15名の院生等が参加した「理工学国際シンポジウム」は振興会が後援し、参加した14名の大学院生に渡航費を助成しました。



研究会中は、「理工学国際シンポジウム」に参加したほか、日本領下時代に作られた台湾最大の灌漑施設である烏山頭ダムやこのダムを建設した八田與一氏の記念館を訪れ、同氏ご夫婦の墓に献花し、改めて日台友好を深めました。また、台北市内では、振興会・校友会関係の台湾交流会が開催され、楠見学長・寺内校友会会長(振興会名誉会長)・隅谷振興会会長を含めて10名、台湾在住李銘坤校友会会長、阪本誓史氏を含め16名、合計26名が参加し、親睦を深めました。国境を越えて、振興会・校友会の絆を深めようと、和気あいあいとした中で、閉会予定時刻を大幅に超過して祝宴が進み、出会いを喜び、また再会の約束をして、皆様大変有意義な時間を過ごしました。



台湾での海外研究会は初めての試みでしたが、現地の大学関係者との意見交換や校友とのネットワークづくりの場として、有意義な研究会となりました。

振興会のホームページ

<http://www.kansai-u.ac.jp/ordist/sinkokai/index.html>

関西大学 HP からサイト内検索で「振興会」を入力して下さい

ASCIKU 関西大学科学技術振興会

Associative Society for the Collaboration between Industries and Kansai University